資料２－１

# 施策評価手法の見直しについて

## 1.趣旨

・ 第 10 次大和市総合計画に掲げた将来都市像の実現や施策等の着実な進行のため、実効性のある PDCA マネジメントサイクルを確立することが重要です。
・ あわせて、財政の硬直化が顕在化した現在では、規律ある財政運営の確保も求められています。
・ これらの実現に向け、施策評価手法の見直しを行います。

## 2.見直しの考え方

・ 従来の評価手法を改め、施策、事務事業の改善改革やビルドアンドスクラップに結びつく仕組みに変更します。
・ 評価結果が行財政資源の適正な配分につながる仕組みを作ります。
・ ①予算・人工（にんく）、②業務・活動、③実施結果、④成果指標の４点について推移をデータ化し、それを基に評価できるようにします。
・ 総合計画（後期基本計画）の策定につながるようにします。

## 3.見直しの内容

・ 総合計画の「めざす姿」の達成に対して各事務事業がどのような役割をもっているか明確にするため、1st ステップ成果、2nd ステップ成果、3rd ステップ成果（めざす姿）の 3 階層で論理構造（ロジックモデル）を構築し、事務事業のまとまり（＝事業群）を整理します。
・ 成果を定量的に評価するため、ロジックモデルに必要な成果指標を設定します。
・ 分かりやすい評価様式を作成します。

## 4.評価段階と各結果の活用見込み

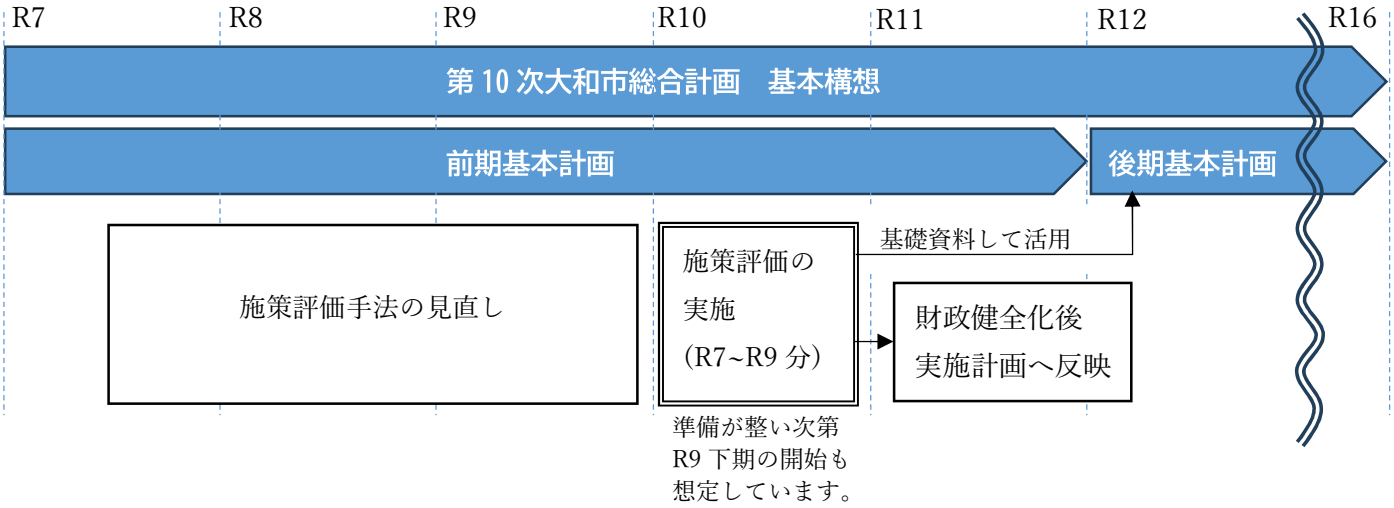
### ➢内部評価（所管部）

・ 1st ステップ成果とそれに結び付く事業群を単位として俯瞰的に評価することで、事業群の有効性や事務事業の優先性を浮き彫りにし、改善改革やビルドアンドスクラップを促します。
・ 事業の改善策を整理するとともに、事業の方向性が変わるもの（拡大/縮小/廃止）は実施計画に掲載する候補とします。

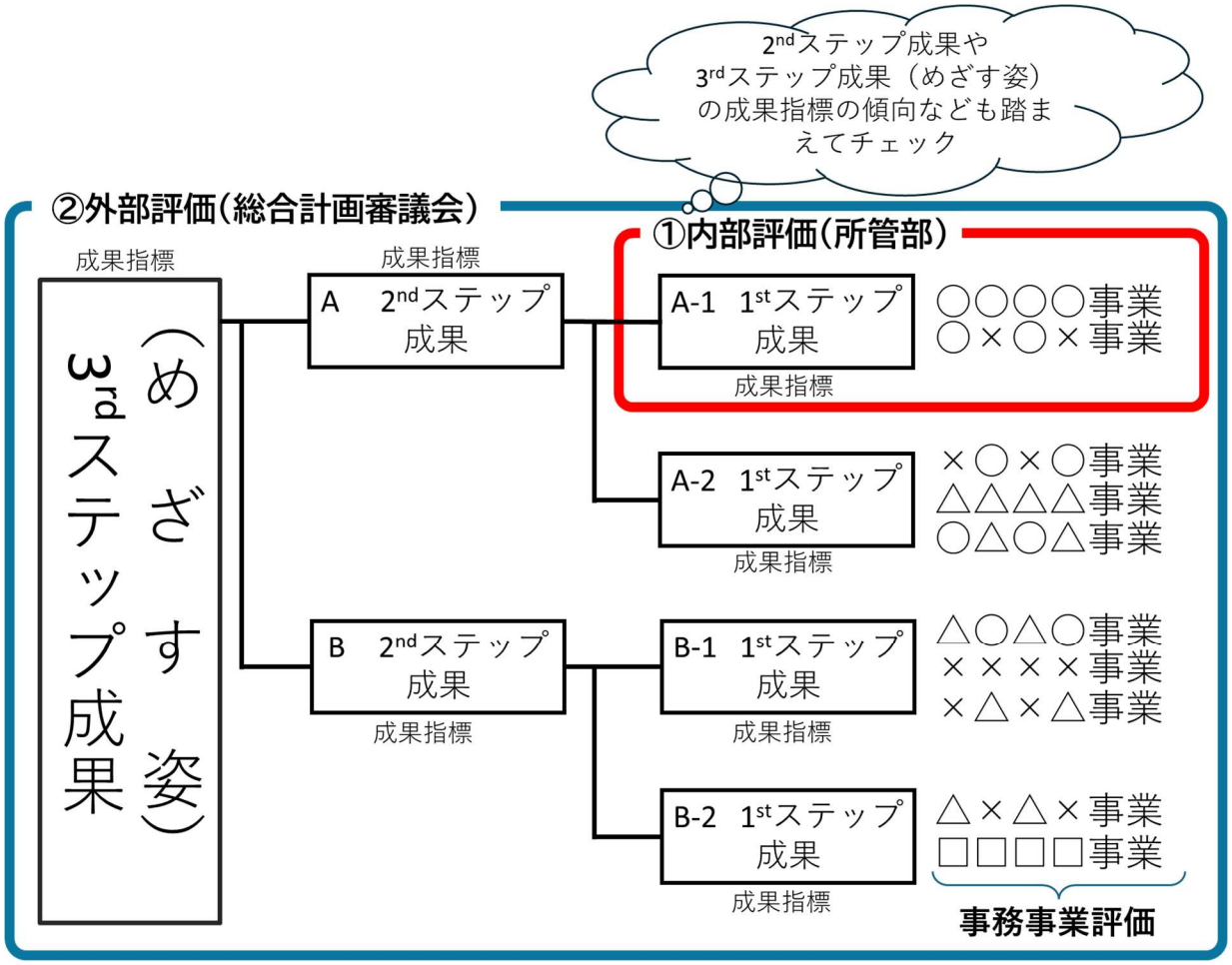
### ➢外部評価（総合計画審議会）

・ 総合計画の「めざす姿」のレベルに立って、各事業群データや成果指標から効果や達成状況を確認し、評価を行います。
・ 評価結果は、総合計画（後期基本計画）の策定の基礎資料として活用します。

## ■施策評価と総合計画



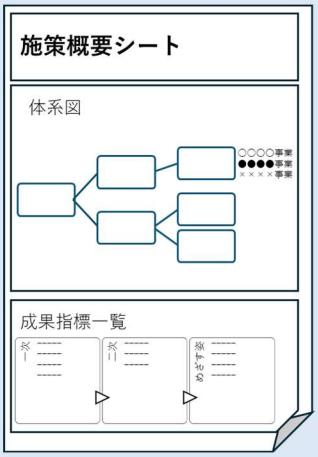

## ■施策評価のイメージ



**①内部評価（所管部）**　※詳細は別紙参照

・総合政策課が（ⅰ）施策概要シート（ⅱ）事業データシート（ⅲ）成果指標シートを集計し、（ⅳ）評価シートとともに所管部に提供します。

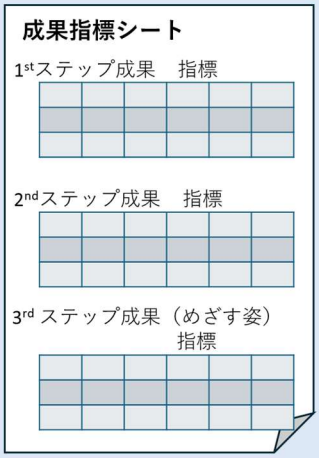
・所管部は、（ⅰ）（ⅱ）（ⅲ）の情報を分析し、事業の有効性や課題、改善策などを（ⅳ）評価シートに入力します。



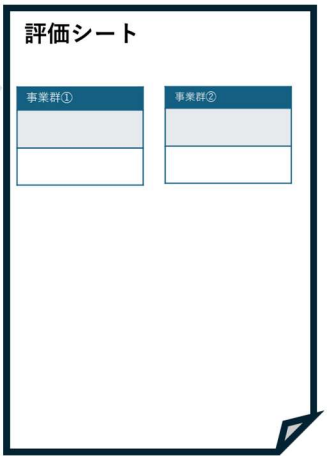

・現状と課題
・ロジックモデル
・成果指標の一覧




・事務事業一覧
（事務事業評価の結果を抽出）




・成果指標の推移

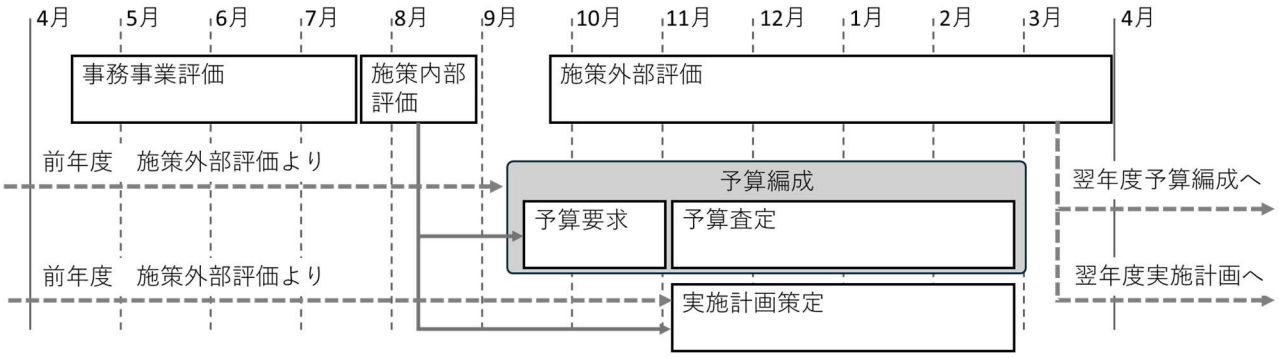



上段３シートの情報を分析し、
事業の有効性や課題、改善策などを入力

**②外部評価**

➢総合計画審議会が、事業群、各目的とその成果指標を総体的に確認し、各めざす姿ごとに重要度と進捗状況の観点から評価を行います。

## 5. 評価および活用の流れ




## 6. 見直しに向けたスケジュール

R8.10 月上旬　第１回総合計画審議会（施策評価手法の見直しについて①）

11 月下旬　第２回総合計画審議会（施策評価手法の見直しについて②、その他）

R9. 1 月 ～　庁内　（ロジックモデルの構築等）

適宜　総合計画審議会　（ロジックモデルの意見交換）

R9.下期以降　庁内　（内部評価開始）